

図書館だより

No. 33

●変わり続ける図書館

…… 学術研究担当副学長・総合人間科学部心理学科教授 岡田 隆

●教えて! ソフィアンくん

～ 第16回 図書館の基礎知識【前編】～

●電子書籍/eBookを利用しよう!

●新RefWorksの提供を始めます!

●図書館ツアー開催!

●図書選定委員お薦めの本

…… 文学部フランス文学科教授 小倉博孝



変わり続ける図書館

学術研究担当副学長
総合人間科学部心理学科教授
岡田 隆



私が学生時代に利用した大学図書館は、「学術本・学術雑誌を所蔵していて、調べ物をするときに外向く建物」でした。その当時から比べると、現在はネットワークの普及等によって大学図書館もかなり多様な機能を引き受けている存在であるといえます。図書館を訪れて本を閲覧したり借り出したりすることが、自分の教育研究にとって不可欠であることは今も変わりありませんが、図書館によって提供されるオンライン情報が格段に充実したことにより、今では実際に出向く回数に比べて、大学Webサイトのトップページにある「図書館」のバナーをクリックする回数の方がむしろ多いぐらいかもしれません。(電子メールもインターネットも使えなかった時代、大学人はどうやって研究活動をしていたのだろうと今の人は思うでしょう。) また、本学の中央図書館の場合は、ゲートを入った先に附置研究所をはじめ、院生研究室、会議室、多目的学習スペースであるラーニング・コモンズなども備わっており、本を読むという行為を超えた複合的な学術施設として図書館は存在しています。このようなさまざまな発展を目の当たりにしますと、「図書館」の概念そのものが私の学生時代から変わってきたのかとも思えるほどです。

一利用者としての大学図書館との関わりはずいぶん長いものの、そもそも図書館とは何かについて私がよく知っているとは言えません。そこで、にわか勉強ですが調べてみますと、図書館はどうあるべきかについて簡潔な文章にまとめた、インドの図書館学者ランガナタン博士による次の5法則を各所で目にしました。

(1)本は利用するためのものである。(2)いずれの人にもすべて、その人の本を。(3)いずれの本にもすべて、その読者を。(4)読者の時間を節約せよ。(5)図書館は成長する有機体である。これらの法則が述べられている、ランガナタン博士による著書は初版が1931年、第2版が1957年の刊行とのことですので、大学図書館の扱う情報が紙媒体に限られていたところに提唱されたものです。しかし、この法則を詳細に解説した竹内愼『図書館の歩む道 ランガナタン博士の五法則に学ぶ』(日本図書館協会 2010年 書庫4階 / 010.1:R156t)によると、これらの法則すべてを支えている基盤は「すべての人に教育を」という思いであって、これは21世紀の課題として引き続き私たちとも共有されているテーマと言えましょう。したがって、「本」を扱うだけにとどまらないインターネット等を駆使した現在の図書館も、また複合的な学術施設としての図書館の姿も、まさにこの法則がめざすところに則って図書館が図書館として発展してきた結果であろうと思い至りました。

昔のイメージから考えると劇的に変化してきた図書館ですが、まさにランガナタン博士の5つめの法則「図書館は成長する有機体である」、固定観念にとらわれずに発展していくことが、大学構成員の勉学と学術研究に不可欠な存在として今後も大学図書館に望まれることでしょう。その実現には、図書館を運営する人々の努力のみならず、利用する側である教職員・学生からの不断の関わりとフィードバックが欠かせません。上智大学中央図書館が発行している冊子『情報検索スタートブック』に、図書およびデータベースの利用方法が詳しく書かれていますので、学生の皆さんにはこの冊子を手元に置いて現代の大学図書館で「何ができるのか」をまず体験するところから始め、在学中だけでなく卒業後も図書館との密な関係を保ってほしいと願います。

教えて！ ソフィアンくん



～第16回 図書館の基礎知識【前編】～

利用案内などにも載っていて、図書館ではよく使われている言葉だけれど、よくわからない言葉ってあるんじゃないかな？ これを読めば、そんな疑問が解決できるよ！

あ～お

あ

【ILL（あい える える）】Inter Library Loan の略。図書館間の相互貸借のことで、上智大学にない資料を他大学から借りたり、複写の依頼をすることができる。申込みはレファレンスカウンターでできる。

い

【e-book（イーぶっく）】Electronic book（電子書籍）の略。インターネット上やCD-ROMなど電子メディアを用いた図書資料のこと。図書館HPから利用できる。雑誌はe-journal（電子ジャーナル）と呼ばれる。

う

【Web of Science（うえぶ おぶ さいえんす）】図書館で契約しているデータベースの一つ。自然科学・社会科学・人文科学といった幅広い分野の文献目次が検索できる。図書館HP情報検索のページから利用可能。

え

【AV資料（えー ぶい しりょう）】DVDやCDなど画像・映像・音声などで記録された資料。視聴覚資料ともいう。図書館1階のAVコーナーで利用できる。

お

【OPAC（オーぱっく）】Online Public Access Catalog の略。図書館の蔵書が検索できるオンライン目録のこと。図書館内に専用端末がある。インターネット上どこからでも利用できる。

か～こ

か

【学習支援席】大学院生が学習上の相談にのってくれる場所。図書館地下1階ラーニングコモンズ内にある。

【学生ラウンジ】図書館地下1階にあるラウンジ。グループ学習はもちろん、勉強の合間の休憩もできる。自動販売機もある。

き

【貴重書】一般には手に入らない古い本や珍しい本。貴重書書庫に保管されており、閲覧の際には願書の届けが必要。図書館HP「貴重資料データベース」からも検索できる。 <https://digital-archives.sophia.ac.jp/rarebook/>

く

【グループ学習室】10人程度の人数で、プレゼンテーションの練習などができる部屋。図書館地下1階にタイプの異なる部屋が三つある。

け

【研究所】図書館内には9つの研究所がある。OPACでは研究所の資料も検索でき、「オープン書庫」にあるものは、図書館の資料同様に利用することができる。

こ

【購入希望】必要な資料が図書館にない場合、購入希望を出すことができる。該当は図書のみ。図書館の選書基準に当てはまらない場合には購入が認められないこともある。

さ〜そ

さ

【CiNii（さいにー）】データベースの名前。『CiNii Books』と『CiNii Articles』があり、前者は他大学図書館の蔵書を、後者は雑誌に掲載されている論文の検索ができる。

【雑誌】一定のタイトルの下、定期的に刊行される資料（新聞を除く）。大学図書館では書店で目にする「商業雑誌」よりも、研究者のオリジナル論文を収録している「学術雑誌」を多く所蔵している。

し

【情報検索ブック】紙の資料の検索方法やデータベースの使い方について解説した資料。上智大学図書館が発行しており、入学時に配布される。英語版もあり。

【書架】本棚のこと。OPAC の検索結果で、「資料状態」が「書架」となっている場合には、検索時点で本棚にあるという意味。

【書誌情報】ある資料を、その他の資料と同じまたは異なると判断するために必要な事項のこと。〈図書の主な書誌情報〉書名、著者名、編者名、訳者名、版表示、出版地、出版者、出版年、ページ数、大きさ、ISBN など。

す

【出納（すいと）】閉架書庫から資料を取り出し、利用者に提供すること。または戻すこと。上智大学図書館の場合、閉架書庫とは『集密書庫』のことを指す。集密書庫の資料の利用には「集密書庫利用申込票」を閲覧カウンターに提出することが必要。「に」の項目を参照。

せ

【請求記号】図書の背ラベルに記入されている記号。タイトルや著者などを表しており、図書館の資料はこの順番に並んでいる。

【製本雑誌】雑誌のバックナンバーを数冊まとめて合冊の形にしたもの。

そ

【相互貸借】ILL のこと。「あ」の項目を参照。

【蔵書点検】図書館の資料がきちんと館内にあるか、また、請求記号順に正しく並べられているかなどを確認する作業。

【Sophia Search（そふいあ さーち）】上智大学が所蔵している冊子体の資料や電子資料（e-book や e-journal など）を横断検索できるツール。

た〜と

た

【短大書庫】短期大学部図書館の書庫。OPAC の配架場所に「短大書庫」と表示された場合、配送サービスを利用すれば、中央図書館で受け取ることができる。

ち

【長期貸出】夏休みや春休みなどの長期休暇に合わせて、通常よりも貸出期間が長くなること。

つ

【Twitter（ついったー）】図書館でも 2020 年 5 月から利用開始。緊急連絡事項や役立つ情報などを発信。フォローをよろしくお願いします！



て

【DB（でーたべーす）】論文や新聞記事、またはその書誌事項（タイトルや著者など）等を検索できるようにまとめたデータのこと。図書館 HP「情報検索」から利用できる。http://lux.lib.sophia.ac.jp/HomePage/?page_id=32

【電子書籍・電子ジャーナル】e-book、e-journal のこと。「い」の項目を参照。

と

【図書館だより】今読んでいるこの冊子。先生方の図書館にまつわるエピソードやお薦め本、また皆さんに役立ちそうな図書館情報を提供している。4 月と 10 月の年二回発行。

な〜の

な

【Nacsis（なくしす）】National Center for Science Information Systems の略。国立情報学研究所が提供している総合目録データベース。

に

【2 号館集密書庫】2 号館の地下にある書庫。古い年代の資料や貴重書などが保管されている。利用者は入ることができないため、閲覧したいときには申込票を閲覧カウンターに提出する。

ね

【年鑑】統計などをまとめて、年に一回刊行される定期刊行物。

の

【のーとばそこん】地下 1 階のラーニングコモンズで貸出している。一人あたり三時間使用できる。館内であればどのフロアでも利用できる。

電子書籍 / eBook を利用しよう!

図書館では、自宅など大学以外の場所からも研究や学習に活用できるように、電子書籍 (eBook) をたくさん購入しています。

図書館 HP の「Let's start 電子書籍 / eBook」のページで、電子書籍への色々なアクセス方法を案内しています。



①各電子書籍コンテンツ

図書館が契約している電子書籍コンテンツから、タイトル・分野別に検索をしたり、閲覧することができます。

図書館では現在、6種類の電子書籍にアクセスできます。

和書…丸善 eBook Library (和書の電子書籍。2021年2月現在、約6,000タイトルの閲覧可)

洋書…Cambridge Core, Oxford Scholarship Online, ProQuest Ebook Central :

Academic Complete, T&F : Taylor and Francis, SpringerLink

②まとめて検索 Sophia Search

一つのキーワードで幅広く資料を探したい時はこちら。図書館が契約する様々な電子書籍・電子ジャーナルはもちろん、所蔵している冊子体の資料(図書・雑誌)すべてを対象に横断検索ができます。

③いろいろなデータベース Various databases

電子書籍の他にも、図書館で契約している電子ジャーナルやデータベースを利用するのならこちら。分野別・目的別でデータベースを探すことができます。

※提供元によって電子書籍の利用方法が異なります。それぞれにアクセスして確認しましょう。

※学外から利用する場合は、必ずVPN接続の設定を忘れずにしましょう。

VPN

<https://ccweb.cc.sophia.ac.jp/userguide/network/nw-04/>

新RefWorksの提供を始めます！

データベースで検索した書誌情報を保存したり、その情報を基に参考文献を作ったりできる文献管理ソフト『RefWorks』。このとても便利な『RefWorks』に、新たな機能も加わって更に使いやすくなった、新RefWorksの提供を始めます！

※RefWorksを利用するにはアカウントの作成が必要です。

アクセス先 図書館HP>情報検索>文献管理ソフトRefWorks

http://lux.lib.sophia.ac.jp/HomePage/?page_id=32

アカウントを持っていない人



「New RefWorksへログイン」を選択して、アカウント作成をしてね。
既にアカウントを持っている人は移行作業が必要だよ！
図書館ではRefWorksの講習会も開催します。
4/15(木) 14:00～15:00
※zoomを使用したオンライン講習会です。
図書館HPの「お知らせ」で確認してね！

旧RefWorksのアカウントを持っている人



旧RefWorksにログイン後、『Upgrade to the latest RefWorks version!』をクリックして、現行のRefWorks内のデータを移行してください。

※旧RefWorksが使用できるのは2021.9.30までです。

図書館ツアー開催！



以下の日程で図書館ツアーを行います。

- 4/5(月)～4/9(金) 10:00～、13:00～、15:00～
- 4/19(月)、4/20(火)、4/22(木)、4/23(金) 10:00～、15:00～
各回15分程度、予約不要

参加希望者は、開始5分前に1階レファレンスカウンター前に集合してください。

ツアーに参加すると、図書館のことがよくわかるようになります。

参加者には記念品も。皆さんの参加を待っています！

図書選定委員お薦めの本

文学部フランス文学科教授 小倉博孝

『完本 春の城』

(石牟礼道子、藤原書店、2017)

学部図書 地下2階：913.6.I763h



石牟礼道子といえばだれもがまず代表作である『苦海浄土』〈学部図書 地下2階 918.68:I783:v.2-3 ほか〉を思い出すだろう。しかしわたしはここで、作家が水俣病闘争のさなか、チッソ本社ビル前での座りこみ（1971 年 12 月）の時に着想をえたという『春の城』〈学部図書 地下2階 :918.68:I783:v.13〉（初版タイトル『アニメの鳥』〈キリスト教文化研・書庫 :913.6:ls〉1999 年のち『完本 春の城』2017 年）を紹介したい。

いきなり直球の表現になってしまうが、生きるということは、今・ここで感じ、考え、行動する人間一人ひとりのいとなみそのものだといえるだろう。しかしそういった個別の生にしたところで、言葉にはなっていない過去の多くの人々の感情、考え、おこないの集合体に自分という新たなひとりの人間が加わって作られた思いが、個人のいとなみとなってあらわれているにすぎない。そのことを作家は強く感じていたにちがいない。『春の城』は、作家自身を作り上げている、過去に生きた人々のまだ声となっていない声に耳を傾けようとしたところみである。天草出身である石牟礼道子があつかったのは、天草・島原の乱（1637-1638 年）であった。

この作品はつまり、原城に籠城した一揆軍約 3 万 7 千人が幕府軍約 12 万人を相手に最後まで戦い、子供から老人まで一人残らず処刑されたキリシタン時代最後にして最大の反乱を大河小説の形をとりながら再現しようとした物語だということになる。たしかに、歴史的事実の背景を探りながら信仰に裏打ちされた一揆にいたるまでの歩みと原城での戦いが、多くの登場人物たちの生き様・心情をとおして描かれているのだが、真に焦点が当てられているのは、じつは歴史でもなければ信仰ですらないだろう。雄大な時間の流れの礎を太古から未来永劫にかけて作り続ける民衆の生活と魂そのものがある。乱の指導者である天草（益田）四郎ですら、そのカリスマ性はあくまでも抑制されて描かれている。かれがおこなう秘法は、唐人から学んだ手品であることが示唆されるほどである。石牟礼道子が天草四郎をとおして描きたかったのは、苦しみあえぐ人々に「加勢」したいという民の思いそのものである。かの女はそれを人間のなかにある聖性ととらえている。石牟礼文学にたびたび出てくる「もだえてなりともかせ（加勢）せんば」（何もできないが、苦しむだけでも力にならなければ）という民衆のなかに生き続ける「もだえ神」の魂である。極限状態のなかにある人間が示す聖性を作者は天草・島原の乱をとおして描こうとしたのである。仏教徒でありながら一揆軍に加わり死んでいったおうめという登場人物を作り出した理由もそこにあるだろう。また、原城落城を決定的とする幕府軍砲撃隊を指揮した鈴木三郎九郎重成に注目したのもやはり同じ理由からであろう。この人物は、一揆壊滅後幕府の直轄領となった天草の初代代官に任命されるが、領民のために尽力し、最後は年貢半減を幕府に願い出て江戸で割腹自殺している。天草には今でも鈴木神社なるものがあり、代官鈴木功績を称えているということである。幕府側の人間であったかれが任命地の民のなかに見出したものもこの土地に息づく「もだえ神」の魂だったに違いない。

長編小説『春の城』は、『苦海浄土』に直結する石牟礼文学の傑作だということができるだろう。ずっと読み継がれていてほしい作品である。

叡智が世界をつなぐ



上智大学図書館だより No. 33

発行所 上智大学図書館

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 TEL: 03-3238-3510 FAX: 03-3238-3139

発行日 2021年4月1日

印刷 三鈴印刷株式会社 TEL: 03-5276-0811